

生命を生みだす母親は
生命を育て 生命を守る
ことをのぞみます

母親しんぶん

ニュース版

No.9

2026.9.10

日本母親大会連絡会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 (〒102-0084)
電話03 (3230) 1836 fax03 (3230) 1837 ホームページ<http://hahaoyataikai.ai.jp>

各県母親大会 開かれる

憲法を変えさせない！

平和・人権・ジェンダー平等が守られる

社会の実現に力を合わせましょう

戦争とめる・憲法守る

つながりの連帯で

第68回岐阜県母親大会 in 関・美濃・郡上

6月21日、「共に生きるとは?憲法をいかし 差別と偏見のない平和な社会を!」をテーマに、第68回岐阜県母親大会を開催しました。

10の分科会場【①戦争国家づくりを止める運動を!②障がいのある人が安心して生活できるように(A 卒業後)(B 学齢期)③若者支援の今とこれから④地震大国日本:原発いらない⑤ジェンダー平等をめざして⑥介護保険制度を知ろう⑦食べることは生きること⑧子どもの権利は守られているか ⑨PFAS 汚染から命の水を守るために】では、495人が討議しました。

午後からの全体会は現地で739人、サテライト会場などオンラインで23人の参加者で、子育て中のシンガーソングライターによる心温まる優しい歌声で始まりました。

全体会での各地からの訴えは「高校生宛の自衛隊からの DM に対する訴訟問題、教員未配置・免許外授業の解消・正規教員配置の要求、所得税法56条の廃止と国保の充実・消費税減税とインボイスの廃止、戦争とめる・憲法守る・つながりの連帯



で社会をかえる」と続けました。

記念講演は、フォトジャーナリストの安田菜津紀のさんによる「戦争と人間の尊厳～国内外の取材から考える～」でした。沖縄戦と東日本大震災の遺骨収集を軸として、人間の尊厳について考える機会となりました。閉会后、有志によるスタンディングを行い、岐阜県大会の幕を下ろしました。



全体会 記念講演

(岐阜県母親大会連絡会 塩谷芳美)

『絵本で何ができるか』

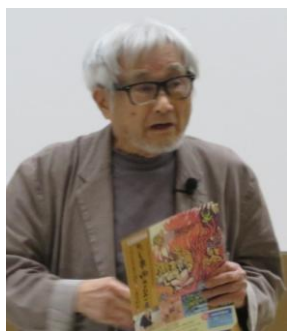
絵本作家の田島征彦さん講演

第63回島根県母親大会松江大会

6月28日(日)松江市にて島根県母親大会を開催、約250人が集いました。

午前中は分科会と並行して、親子で楽しむコーナーや「けんこう体操」のコーナーを取り入れ、初めての方の参加が増えるよう工夫しました。参加者からは「出し物、コンサート、どれも楽しかった」と好評でした。

分科会は、①子育て②平和③食と農④笑いヨガ&社会保障。「子育ての分科会」では、不登校の家庭への昼食代の支給やフリースクールへの予算措置など、具体的な要望が出ました。どの分科会でも、アメリカ追従の大軍拡がもたらす農業や暮らしへの弊害が噴出しました。



講演をする田島征彦さん

記念講演は、絵本作家の田島征彦さんによる『絵本で何ができるか』。読み語りを交えて、絵本作りへのこだわりや沖縄が長年背負ってきた苦みの歴史、基地問題などにも触れ、中身の濃い時間となりました。サインテーブルでは一冊一冊に登場人物のイラストを描かれ、87才とは思えない田島さんのエネルギーに感激しました。

閉会行事では、地元実行委員長の子育て世代ならではの熱いメッセージとともに、若い世代の実行委員のみなさんによる「戦争反対!」のコールと恒例の「青い空は」の歌で、大会を締めくくりました。

(島根県母親大会連絡会 江角聖子)

今、私たちが取り組まなければならないことは

第57回福井県母親大会



7月5日、第57回福井県母親大会を午前中は分科会、午後は全体会と1日開催で取り組みました。延べ約240名の参加がありました。

午前は、3つの分科会を行いました。「女性と人権」では、早稲田大学准教授の矢内琴江さんとズームでつなぎ、「日本国憲法とジェンダー」の話を聞き意見交換をしました。「うたごえ広場」では、なつかしい曲、平和・命の曲等を歌い合いました。「特別企画」では、「荒野に希望の灯をともし」を上映し、医師中村哲さんが9条の非暴力の精神をどう体現したかを考え合いました。

午後の全体会は、オープニングに沖縄踊りと山形から「風とたんぽぽ」のゲストを迎え、和やかな雰囲気の中で始まりました。記念講演は、法政大学の児美川孝一郎さんによる「今日の教育改革とデジタル化は、子どもたちにどんな未来をもたらすのか?」でした。ITC活用、DX化、AIの問題、教育のデジタル化がなぜ進められているのかについて分かりやすく話していただきました。何より教育が経済産業省の計画により進められていることに怒りを感じます。教育の本質「人格形成」と真逆の経済界の金儲けのための教育を進める政府の方針を絶対に止めなければなりません。

「今日の運動」では、各実行団体から報告をもらいました。今私たちが取り組まなければならない問題がよく分かり、みんなで取り組んでいこうという気持ちを高め合うことができました。最後に大会アピールを採択して終了しました。

(福井県母親大会連絡会 高橋義枝)

開催地の力がみんなの力に

第71回埼玉母親大会・

第62回深谷地区母親大会

7月12日(日)第71回埼玉母親大会、第62回深谷地区母親大会が、深谷市民文化会館で開催されました。大会の文化行事は、深谷の実行委員会が担当しました。中心になったのは、保育士たちです。最初は、保育の中で毎日歌っている年長児の歌声と共に保育園の日常生活を紹介した写真のスライドショーです。保育園児の生き生きした姿は、参加者を笑顔にしました。次は、保育士有志による「エイサー踊り」です。「本物を見せたい!」と、荒馬座の方々に教わり、仕事が終わってから練習を重ねました。ダイナミックな踊りに、大きな拍手を浴びていました。

記念講演は「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見てきたこと～」をテーマにフォトジャーナリストの安田菜津紀さんのお話です。現場に足を運び、話を聞き、映像と共に伝える講演でした。一つ目は、原発事故に見舞われた福島大熊町の木村さんのお話。避難地区のため長く見つけれなかった娘さんの遺骨が、沖縄戦没者の遺骨収集を続ける具志堅さんが来てくれたおかげで見つけることができたこと。福島・沖縄の苦しみ話を話していただきました。もう一つは、ガザのお話。埼玉県1/10の土地に220万人も押し込まれ、海さえ狭く区切られていること。イスラエルの攻撃前ですが、福島応援の風揚げをする写真。しかし、その方たちとも今、連絡がつかなくなっている現実があること。どちらも人の尊厳を踏みにじる問題で、今も続



く不条理に「こんな世の中で良いのか」と問いかける安田さんの静かで強い思いに、共感しました。

後半は、運動交流で10人の方たちが発言しました。地域や団体の発言は、参加者に元気と勇気を与えました。参加者は、オンライン参加を含め950名余りとなりました。ここで得た力を第71回日本母親大会 in 宮城の成功につなげていきたいと思っています。

(深谷地区母親大会実行委員 鈴木純江)

平和をつなげていく

努力をしていきましょう

第73回秋田県母親大会



第73回秋田県母親大会が、7月12日秋田市にぎわい交流館 AU を会場に、開催されました。

記念講演は「シリアの家族～シリア難民の妻、二児の母、写真家としてシリアを見つめ続けた13年～」と題して、小松由佳さん(秋田市出身のドキュ



メンタリー写真家・第23回開高健ノンフィクション賞受賞)にお話していただきました。

現在、世界各地で戦争や紛争が続き、多くの死者、難民が生まれています。小松さんはシリアを取材してきて、考えてきたことを私たちに課題として投げかけてくれたように思います。難民はなぜ生まれるのか。難民になるということ、故郷を失うとはどういうことか。また、ルーツの異なる人々と、いかに同じ場に生きられるのか。たくさんの写真や資料を提示しながら、時にクイズにしたり、笑いを誘ったりしながらのお話でした。最後に「長い間、かかって作られてきた平和が壊れるのは一瞬。報道されている表のことだけではなく報道の外側にも目を向けていくことが大事。平和をつなげていく努力をしましょう。」と呼びかけてお話を結びました。

その他のプログラムでは、歌の交流で「青い空は」「手のひらを太陽に」の替え歌「今、私達は」を大きな声で歌って楽しみました。活動の交流では、鹿角母連の青柿山の風力発電反対の運動の報告、秋田市平和委員会の積み重ねてきた活動の報告、新日本婦人の会秋田市市部、農民運動県連合会の報告があり、大会アピールを採択し終了しました。計画していたスタンディングは雨のため中止しました。参加者は昨年に比べ100人以上増の260人でした。(秋田県母親大会連絡会 富田早苗)

「憲法改悪に反対し 9条を守り抜く」

第64回群馬県母親大会 in 太田

7月26日、「改憲・軍拡 NO! 今守る いのちとくらしと子どもたちの未来」のスローガンを掲げ、第



64回群馬県母親大会を太田市文化ホールで開催しました。505人の参加者で満席となり、夏の暑さを上回る熱気で包まれました。

午前は平和・医療・教育、身体を使ったり歌うなどの参加型や見学を含む8つの分科会で交流しました。

全体会は埴輪の絵画と西瓜の置きものが飾られにぎやかな「チンドン」で幕を開けました。

「発言のひろば」では「今こそ私は言いたい!」として、県内学校給食費無料化の運動、原発再稼働反対の運動、各地で平和を願う行動ピースアクション(ペンライトスタンディング)の報告、農民連女性部による寸劇も行われました。

記念講演は、環境活動家でプロダイバーの武本匡弘さんが「海の中から地球が見える～気候危機と平和の危機～」と題して行い、気候変動要因となる二酸化炭素を多く排出しているのは日本を含む経済大国10カ国であり「最大の環境破壊は戦争である」と指摘しました。

海洋調査で目の当たりにしたプラスチックごみの実態を伝え、「プラ製品は一度作ってしまうと将来世代へのつけになる」と警鐘を鳴らし「環境問題について知って疑問に感じたことは、自分事として考え行動してほしい」と呼びかけました。

最後に大会アピールと「憲法改悪に反対し9条を守り抜く」特別決議を全会一致で採択し、フィナーレでは憲法9条のコールをみんなで行いました。

(群馬県母親大会連絡会 渋澤 八重子)